

第2編 地震動・液状化・崖等

1. 概要

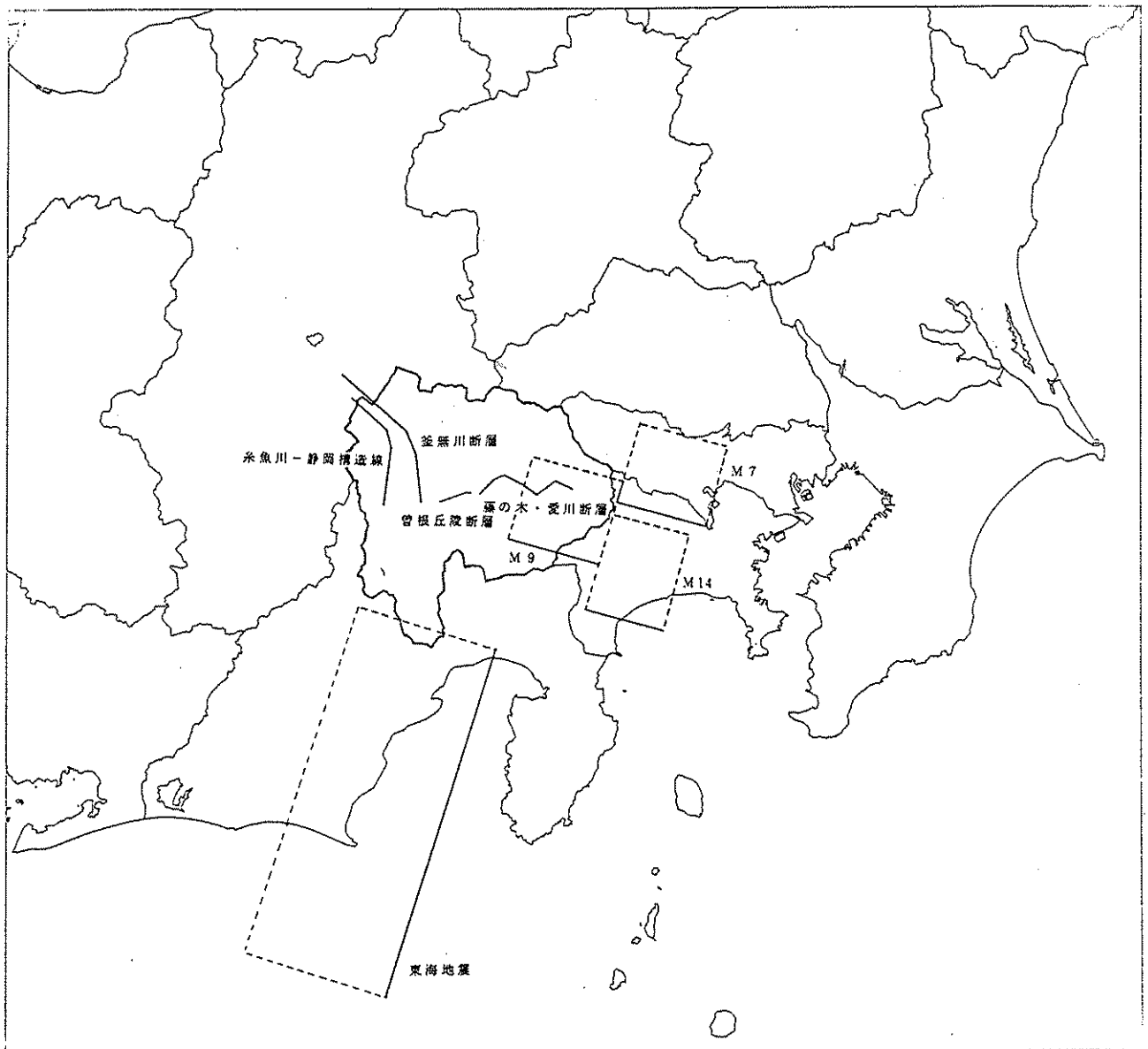
本編では、被害想定を行うにあたってどのような想定地震を設定するか、地震が発生した場合に地盤の揺れはどうか、液状化はどこで発生するか、危険な崖はどこか等、地震時の県下の自然的な状況について調査する。

2. 想定地震の設定

本県は、関東地震、安政東海地震等の相模トラフで発生する地震により被害が発生している。

また、本県は第一級の活断層である糸魚川-静岡構造線をはじめとして多くの活断層が分布している。

このような県下の地震環境を考慮して以下に示す地震を想定した。



想定地震

3. 地盤の分類

山梨県の地域特性を考慮し以下に示す地盤条件に従って8種類に地盤分類を行い、地盤分類図を作成した。

山梨県の地盤条件

基準分類		山梨県地盤条件分類番号	説明
1種	(1)	1	先第四系の堆積岩類、固結火山岩類の分布地。
	(2)	2	富士山麓・八ヶ岳山麓などのテフラ（層厚1-2m以下）の分布地、山頂部のロームの分布地、山間の谷底低地の河床砂礫の分布地。
2種	(1)	3	甲府盆地南縁の洪積層（曾根層群・笛吹川層群）の分布地、時にローム層が覆っている。
	(2)	4	山頂平坦面にのる地すべり崩土・崖錐など（層厚10m以下）の分布地。
3種		5	沖積層の厚さ25m以下、浅層部に軟弱層がみられない。
4種	(1)	6	沖積層の厚さ25m以上、表層部（1~3m以浅）に軟弱層がみられない。
	(2)	7	沖積層の厚さ25m以上、表層部（1~3m以浅）に軟弱層がみられる。
	(3)	8	液状化の可能性がある地域。

（軟弱層は基準分類の定義に準ずる）

本県の地盤分布の特徴は、

- ①全般に岩盤と称する第三紀以前の地盤が75%以上を占めている
- ②洪積層および沖積層は主に甲府盆地に分布している

ことである。

基準分類別の分布傾向では、県内の80%以上の地域で1種地盤が分布しており、2種地盤は主に釜無川、富士川、笛吹川流域などで分布している。3種地盤は釜無川流域で主に分布し、4種地盤が占める割合は県内で7%にみたなく、その分布する地域は甲府盆地と山中湖周辺に限られている。